

第 52 回日本バイオフィードバック学会学術総会
開催趣意書



- 会期:2025 年 6 月 21 日(土)・22 日(日)
- 会場:東川町農村環境改善センター
- 総会長:及川欧(旭川医科大学病院リハビリテーション科)
アニマルセラピーとリハビリテーションを考える会 委員長

第 52 回日本バイオフィードバック学会学術総会開催にあたって

平素より、日本バイオフィードバック学会の活動に対しまして、ご理解をいただき、誠にありがとうございます。

日本バイオフィードバック学会は、医学・工学・心理学の研究者が集うかたちで 1973 年にバイオフィードバック研究会として発足し、1983 年に日本バイオフィードバック学会に改称し毎年学術総会を開催してきました。また、1988 年にはバイオフィードバックを臨床等の場で適切に実施できる専門技術者を養成する目的で認定バイオフィードバック技能師資格制度を発足し、資格認定に必要な単位を取得し申請のあった会員に対してバイオフィードバック技能師資格を認定しています。

この度、第 52 回日本バイオフィードバック学会学術総会を 2025 年 6 月 21 日(土)・22(日)の 2 日間に渡り、旭川医科大学病院リハビリテーション科の主催にて開催させていただくこととなりました。本学術総会はこれまで展開されてきた学会における議論を踏まえつつ、災害・社会的弱者に対する取り組みや障がい者スポーツ等にスポットを当てたいと考え、大会テーマを「障がいとの共生 - 一人ずつ 一歩ずつ -」としました。資格認定講習会から始まり、学会員による研究発表、シンポジウム、ワークショップ、特別企画(懇親会を兼ねる)、各種講演等を予定しています。本大会が将来のバイオフィードバック研究につながる潜在的なアイデアを刺激し醸成する機会になればと考えております。

今回、新しい取り組みとして、準備・企画段階から、各種障がいを持つメンバーたちとの協働体制を組み、学会内容の立案から交渉などあらゆる準備から進めて参りました。特に、主軸となっていたいただいた NPO 法人カムイ大雪バリアフリー研究所で活動する方々は、「障がいがあっても毎日楽しく！」と普段から熱い心を持って活動しています。彼らが当初から語っていたのは、「低予算の中でもいかに多くのものを具現化するか」というもので、今回の斬新で豊富な内容を見ていただければ、そのチャレンジ魂を感じていただけたと思います。

例えば、旭川がんのリハビリテーション研修会の協力のもと、市民公開講座として悪性腫瘍による片脚切断後にアンプティサッカーとパラトライアスロンの選手として活躍しているアスリートと、本学で悪性腫瘍による上肢・下肢切断等の治療をされている整形外科医に対談をしていただく企画を準備しています。

また、第 1 回健康の祭典 in ひがしかわという市町村民が参加して「健康」と「命」について考える会を、別企画として同時併催します。旭川空港から車で 15 分の距離に位置する東川町は、令和 6 年に開墾 130 周年を迎え、その歴史のある町内で全国規模の学会が開催されるのは初めてのこととなります。地方都市が学会を担当する際の一つの前例になるように、我々は全力で学会の準備を進めているところです。

参加者が、学会と祭典、両会場の行き来がバリアフリーで行えるようにすることで、**学会関係者**は開催地の地域住民が健康のためにどのような取り組み方をしているか見ることができ、**地域住民**は全国の医・工・心 3 領域がどのような研究をしているのかその学術的な理論に接することができるという、相互方向での交流が目的です。

今回、今までの「クール・ビズ」スタイルをもう一段階発展させ、「ノースーツ、ノーネクタイ、ノービジネスシューズ」の形での学会参加を募ります。それは、運動が体験できる恰好での参加を推奨しているからです。その理由は、大会概要を読んでもいただくと、お分かりになるかと思います。

以下、特別企画、シンポジウム、ワークショップ、特別講演の趣旨をご説明申し上げます、本企画に対しまして何卒多くのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大会の概要

本学会総会では、当日の総合司会を含めた進行のほとんどを、NPO 法人カムイ大雪バリアフリー研究所のメンバーを主軸に進めていきます。

<資格認定講習会>

バイオフィードバックを臨床・研究等の場で適切に実施できる専門技術者を養成する目的で 1988 年から認定バイオフィードバック技能師資格制度が発足いたしました。この資格認定講習会は資格認定に必要な単位を取得するためのもので医学・工学・心理学分野のテーマを企画します。バイオフィードバック技能士資格の希望の有無にかかわらず、関心のある方が広くご参加いただけるチュートリアル・レクチャーです。

※本来は学会員が認定を受けるための講習会ですが、地域住民の参加もできるようにしたいと考えています。

<特別企画(各種の新規企画あり)>

東川町民に根差した R-body によるコンディショニング講座や「シルバー・リハビリテーション(シルリハ)体操」など、参加者が体を動かしながら学ぶ形のイベントを開催します。これらは、学会参加者だけでなく、一般市民にも参加していただきます。

また、血圧や握力と認知機能の検査など、健康に関する各種測定とアドバイスを会場内で行います。同測定会や学会でのブース等の出展についても、会場前のキッチンカー同様に、学会参加者と同時に一般市民の参加も可能にしてあります。

初日の最後には、これは参加希望の学会員(懇親会費が別途かかります)のみになりますが、地元の季節野菜やジンギスカン等のバーベキュースタイルにて、会員相互の親睦をはかりながらリラックスした雰囲気の中で討論を行いたいと思います。

<一般演題発表>

これまで、本学会ではバイオフィードバックの背景メカニズム、介入方略、多様な技術開発などについて活発に討論がなされ、バイオフィードバック技術の成果は医療、福祉、スポーツなどの分野で応用・展開されています。一般演題発表は、医学・工学・心理学分野に関わるバイオフィードバック研究発表をひろく募集し、これまでの学会の議論をさらに発展させます。

<ワークショップ>

- (1) **アニマル・セラピー**について、特に**ドッグ・セラピー**について、JAHA(日本動物病院協会)に所属するセラピストと愛犬を招待し、会員との触れ合いを通してアニマル・セラピーについて理解していただきます。旭川は緑の森どうぶつ病院が加盟しており、保久留美子氏が動物介在活動(AAS)のJAHA認定家庭犬しつけインストラクターとして活動を展開しています。また、東川町で取り組んでいたホース・セラピーや大雪山における大自然を相手の活動に関する話題を、東川在住の担当者(教育委員の荒井一洋氏(NPO 法人大雪山自然学校))に語っていただきます。

※2 日目には、英語による国際交流委員会企画シンポジウムを別に組んでいます。

- (2) 体のメンテナンスという点で、今回は能登半島地震の際に脚光を浴びた**シルリハ体操**(住民が住民に対して指導するシステム)、そして東川町民に定着してきている R-body による**コンディショニング講座**の両方を同時に体験で

きる、大変貴重な機会です。

- (3) 障がい者のスポーツという点で、アンプティサッカーという杖を用いて片脚で行うサッカー競技の FC ALVORADA チームの選手（悪性リンパ腫で片脚の股関節離断をしている）を招待しており、医師との対談（本学で治療した患者 1 名とも現在交渉中で、実現すると 3 名による対談形式になります）や実際のアンプティサッカーの体験もさせていただきます。
- (4) 音楽療法の一つの試みとして、北海道ならではのアイヌの音楽と古式舞踏について、日本最古のアイヌ記念館（1916 年開設）となる川村カ子ト アイヌ記念館の館長と副館長（館長のご母堂）に指導させていただきます。
- (5) 北海道 PUSH（心肺蘇生法指導を行っている任意団体）による心肺蘇生法を今回学会初日に 2 回開催します。その現場にいる、あなただけに救える命があることをしっかりと学びましょう。
- (6) 各種ワークショップを今後も継続することを目指す目的（単体の学会で終わらないように）で、令和 6 年の 8 月に任意団体として

アニマルセラピーとリハビリテーションを考える会

という名称の団体を立ち上げ、学会のイベントとして既に 2024 年度のイベントとして 9 月 16 日（月・祝）に第 1 回アニマルセラピー（動物介在療法）体験会 in 東川を行い、そこから本学会に向けて 1）研究を立ち上げ（2025 年 4 月 6 日時点で、まさに旭川医大の倫理委員会審査中）、2）2025 年度の学会の際には、この体験会を拡大する形で、今回東川町民や上川管内の一般市民をもっと巻き込んだ形での、永続性のあるイベント（健康の祭典 in ひがしかわ）を開催することになりました。

<特別講演>

- (1) 当科の大田哲生教授に「障がいとの共生」のテーマに合った形での講演をお願いしてあります。大田先生は、福岡で開催された第 30 回（2002 年）の BF 学会総会にて、本大会会長の及川と一緒にシンポジストとして「バイオフィードバックの臨床応用-再活性化を目指して-」（司会進行：産業医科大学産業生態科学研究所精神保健学講座三島徳雄）でそれぞれの立場で発表しておられます。それから四半世紀が経ち、現在当科で行われている各種治療法について、最新の情報を語っていただきます。
- (2) NPO 法人カムイ大雪バリアフリー研究所の就労継続支援チーム「紅蓮（ぐれん）」隊を仕切るリーダーの五十嵐真幸氏には、仕事、イベント活動、パラスポーツ活動など、地域の方々との共生について、大いに語っていただきます。また、松波正晃氏はロサンゼルスパラリンピックを目指している車いすラグビーのアスリートですので、その夢について語っていただきます。

第 52 回日本バイオフィードバック学会学術総会 総会長
旭川医科大学病院リハビリテーション科
アニマルセラピーとリハビリテーションを考える会 委員長 及川 欧

今までの日本バイオフィードバック学会学術総会一覧

第 1 回	1973	石川 中	東京大学医学部分院心療内科
第 2 回	1974	平井 久	上智大学文学部
第 3 回	1975	宮田 洋	関西学院大学文学部
第 4 回	1976	石川 中	東京大学医学部分院心療内科
第 5 回	1977	水口公信	国立がんセンター
第 6 回	1978	大野喜暉	九州大学医学部
第 7 回	1979	星 昭輝 白倉克之	慶応義塾大学医学部精神神経科
第 8 回	1980	児玉昌久	群馬大学精神医学研究室
第 9 回	1981	斎藤正男	東京電機大学情報通信工学科
第 10 回	1982	筒井末春	東邦大学医学部心身医学講座
第 11 回	1983	原野広太郎	筑波大学学校教育部
第 12 回	1984	桂 載作	日本大学医学部第一内科
第 13 回	1985	南雲仁一	東京大学工学部
第 14 回	1986	松永一郎	兵庫医科大学医学部行動学教室
第 15 回	1987	菊池長徳	東京女子医科大学
第 16 回	1988	金井 寛	上智大学理工学部
第 17 回	1989	児玉昌久	早稲田大学人間科学部
第 18 回	1990	千野直一	慶応義塾大学医学部
第 19 回	1991	秋葉光俊	大阪産業大学工学部
第 20 回	1992	佐々木雄二	筑波大学心理学系
第 21 回	1993	白倉克之	東海大学医学部
第 22 回	1994	西村千秋	東邦大学医学部医学情報学研究室
第 23 回	1995	梅沢章男	福井大学教育学部
第 24 回	1996	斎藤 巖	室蘭工業大学保健管理センター
第 25 回	1997	大須賀美恵子	三菱電機(株)先端技術総合研究所
第 26 回	1998	佐久間春夫	奈良女子大学教育学部
第 27 回	1999	坪井康次	東邦大学医学部心身医学講座
第 28 回	2000	福本一朗	長岡技術科学大学生物系
第 29 回	2001	澤田幸展	札幌医科大学心理学教室
第 30 回	2002	久保千春	九州大学医学部心療内科
第 31 回	2003	宮本芳文	大阪産業大学工学部
第 32 回	2004	稲森義雄	ノートルダム清心女子大学
第 33 回	2005	野村 忍	早稲田大学人間科学学術院
第 34 回	2006	西村千秋	東邦大学医学部医学情報学研究室
第 35 回	2007	志和資朗	広島修道大学人文学部
第 36 回	2008	竹林直紀	関西医科大学心療内科学講座/ナチュラル心療内科クリニック TAKEBAYASHI
第 37 回	2009	大須賀美恵子	大阪工業大学工学部
第 38 回	2010	山口 浩	岩手大学人文社会科学部
第 39 回	2011	中尾睦宏	帝京大学医学部衛生学公衆衛生学
第 40 回	2012	萩原 啓	立命館大学情報理工学部知能情報学科生体情報研究室

第 41 回	2013	廣田昭久	鎌倉女子大学児童学部子ども心理学科
第 42 回	2014	端詰勝敬	東邦大学医学部心身医学講座
第 43 回	2015	星野 聖	筑波大学大学院システム情報工学研究科
第 44 回	2016	松野俊夫	日本大学医学部一般教育学系心理学分野
第 45 回	2017	神原憲治	長岡ヘルスケアセンター・関西医科大学心療内科学講座
第 46 回	2018	星 善光	東京都立産業技術高等専門学校
第 47 回	2019	榊原雅人	愛知学院大学心身科学部心理学科
第 48 回	2021	飯田 俊穂	安曇野内科ストレスケアクリニック
第 49 回	2022	岩田 浩康	早稲田大学理工学術院
第 50 回	2023	小林 能成	東洋英和女学院大学人間科学
第 51 回	2024	辻下 守弘	奈良学園大学保健医療学部リハビリテーション学科

2025年4月7日

ご担当様 各位

第52回日本バイオフィードバック学会学術総会

広告募集案内

第52回日本バイオフィードバック学会学術総会
会長 及川 欧
(旭川医科大学病院リハビリテーション科)

拝啓

貴社におかれましてはますますご清祥の御事とお慶び申し上げます、平素より日本バイオフィードバック学会にご協力いただき、誠にありがとうございます。

さて、当学会の年次大会として「第52回日本バイオフィードバック学会学術総会」を2025年6月21日(土)・22日(日)の両日にわたり東川町環境改善センター(仮)にて開催する予定です。学会の開催にあたりまして学会抄録集を作成する予定でありますが、つきましては、貴社ご広告を賜りたく下記のようにご案内申し上げます。

当学会は、医学系、心理学系、工学系の3領域の会員から構成されており、幅広い分野にわたる活動を行っております。**特に医学系はリハビリテーション/心療内科/脳神経内科/精神神経科/東洋医学科の関係者が多く参加します**。学術総会の開催は、機関誌「バイオフィードバック研究」の発行とともに、学会の活動の柱となっており内容の充実に力を入れております。何卒ご賢察の上、ご高配のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、広告にご応募いただけます場合は、大変お手数ではございますが下記事務局までお申し込み下さいますようお願い申し上げます。

敬具

記

年次大会名：第52回日本バイオフィードバック学会学術総会
会 期：2025年6月21日(土)・22日(日)
会 場：東川町農村環境改善センター
北海道上川郡東川町東町1丁目15-3

- 広告媒体：A4版・中綴じ
- 発行部数：250部(予定)
- 予定制作費：100,000円(税込み)
- 予定掲載数：10社程度
- 配布対象者：参加関係者
- 申込締切：2025年4月31日
- 原稿締切：2025年5月16日
- 広告掲載料：A4モノクロ後付1頁、10,000円(税込)

その他 抄録集をお申し込み企業1社につき1冊送付させていただきます。
展示ブースご希望の際には下記メールアドレスにお問い合わせ下さい。

【申込要領】

<申込先・問い合わせ先>

〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1番1号

旭川医科大学病院リハビリテーション科

第52回日本バイオフィードバック学会学術総会 大会事務局

及川 欧

E-mail : biofeedback.higashikawa@gmail.com (メール連絡の方が確実です)

TEL : 0166-65-2111 (内線 2873(医局内))

<申込内容>

下記の内容をご記入の上、電子メールにてお申し込みください。確認後、申込メール受領のご連絡を差し上げます。

貴社名(および部署名) :

ご担当者 :

ご連絡先住所 :

電話・FAX :

E-mail :

連絡事項(特記事項等がありましたらご記入下さい) :

<ご請求について>

広告掲載のお申し込み受理後、請求書をお送り致します。請求書発行日より1ヶ月以内に指定口座にお振り込み下さい。なお、振込手数料は貴社にてご負担下さいませようお願いいたします。

次の方法にて指定口座までお振り込み下さい。

【振込口座】 (今回の第52回学会用に開設した新規口座です)

- ・銀行名 : みずほ銀行
- ・店名 : 旭川支店
- ・店番 : 814
- ・口座種類 : 普通預金
- ・口座番号 : 3039219
- ・口座名義 : アニマルセラピートリハビリテーションヲカンガエルカイ

日程表

日程表 1 日目・6月21日(土)

- 9:00 開場・受付開始** ロビー
- 10:00~11:00 バイオフィードバック技能士資格認定講習会 (心理系)** ホール
「スポーツ選手の心理面へのアプローチ」
講師：小谷克彦 (北海道教育大学旭川分校)
- 11:00~12:00 バイオフィードバック技能士資格認定講習会 (工学系)** ホール
「病院内の医療機器を上手にバイオフィードバックに応用するには」 (仮)
講師：南谷克明 (旭川医科大学病院 診療技術部門臨床工学技術部門)
- 12:00~13:00 各種委員会** 小会議室
- 12:10~12:50 PUSH 心肺蘇生法講習会 (1回目)** ホール
- 13:00~13:30 開会の挨拶** ホール
- 13:30~14:30 バイオフィードバック技能士資格認定講習会 (医学系)** ホール
「悪性腫瘍診療における整形外科の役割」
講師：柴田宏明 (旭川医科大学病院整形外科)
- 13:30~14:20 PUSH 心肺蘇生法講習会 (2回目)** 小会議室
- 14:30~15:30 特別講演 1** ホール
「リハビリテーション医療におけるバイオフィードバック」
講師：大田哲生 (旭川医科大学病院リハビリテーション科)
座長：呂 隆徳 (旭川医科大学病院リハビリテーション部)
- 15:30~17:00 市民公開講座** ホール (ZOOMによるハイブリッド開催)
「悪性リンパ腫後の股関節離断からアンプティサッカーとパラトライアスロンへ」
講師：新井誠治 (日本アンプティサッカー協会公認チーム FC ALVORADA)
柴田宏明 (旭川医科大学病院整形外科)
- 17:00~18:00 ワークショップ 1** ホール
第一部：R-bodyによるコンディショニング講座 講師：小野寺未来
第二部：能登半島地震で脚光を浴びた「シルリハ体操」 講師：小林浩
- 18:00~20:00 学会懇親会** 会場外テラスにて

日 程 表 2 日 目 ・ 6 月 22 日 (日)

8 : 30 開 場 ・ 受 付 開 始 ロビー

9 : 00 ~ 10 : 00 国際交流委員会自主企画シンポジウム ホール

「自然界から学ぶ ～障がいとの共生 一人ずつ、一歩ずつ～」 (英語での発表)

English Title: Learning from nature: Coexistence with disabilities

-one person at a time, one step at a time- (Presentation will be in English)

企画・司会：及川 欧 (第 52 回日本バイオフィードバック学会総会 総会長)

シンポジスト：保久留美子 (緑の森どうぶつ病院、JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター)

シンポジスト：荒井一洋 (NPO 法人大雪山自然学校)

10 : 00 ~ 11 : 00 一般演題 ホール

(座長：呂隆徳 (旭川医科大学病院リハビリテーション部))

第 1 席：認知バイアスを考慮したバイオフィードバック

○安土光男

第 2 席：内受容的な呼吸調整法の開発

○榊原雅人 (愛知学院大学心理学部心理学科)

第 3 席：ネックレス式低コスト心電図測定器の試作

○神谷脩斗 (文京学院大学人間学部心理学科) ほか

第 4 席：アニマルセラピーを用いた新規リハビリテーション (第 1 報)

○及川 欧 (旭川医科大学病院リハビリテーション科) ほか

11 : 00 ~ 12 : 00 ワークショップ 2 屋外 (雨天時ホール)

「アンプティサッカー体験会」 (晴天時は小休憩後に 12:00 以降も続けます)

講師：新井誠治 (日本アンプティサッカー協会公認チーム FC ALVORADA)

11 : 30 ~ 12 : 30 理事会 小会議室

12 : 30 ~ 13 : 15 会員総会 ホール

13 : 15 ~ 14 : 15 ワークショップ 3 ホール

「アイヌの歌と踊りを楽しもう！」

座長：荒井一洋 (NPO 法人大雪山自然学校)

講師：川村晴道、川村久恵 (川村カ子ト アイヌ記念館)

14 : 15 ~ 15 : 00 ワークショップ 4 屋外 (雨天時ホール)

「アニマルセラピー体験会」 (第 1 回 2025.9.16、第 2 回 2025.11.23 に続き第 3 回)

講師：保久留美子 (緑の森どうぶつ病院、JAHA 認定家庭犬しつけインストラクター)

15 : 00 ~ 15 : 45 特別講演 2 ホール

「車いすから見えてくる世界」 (仮)

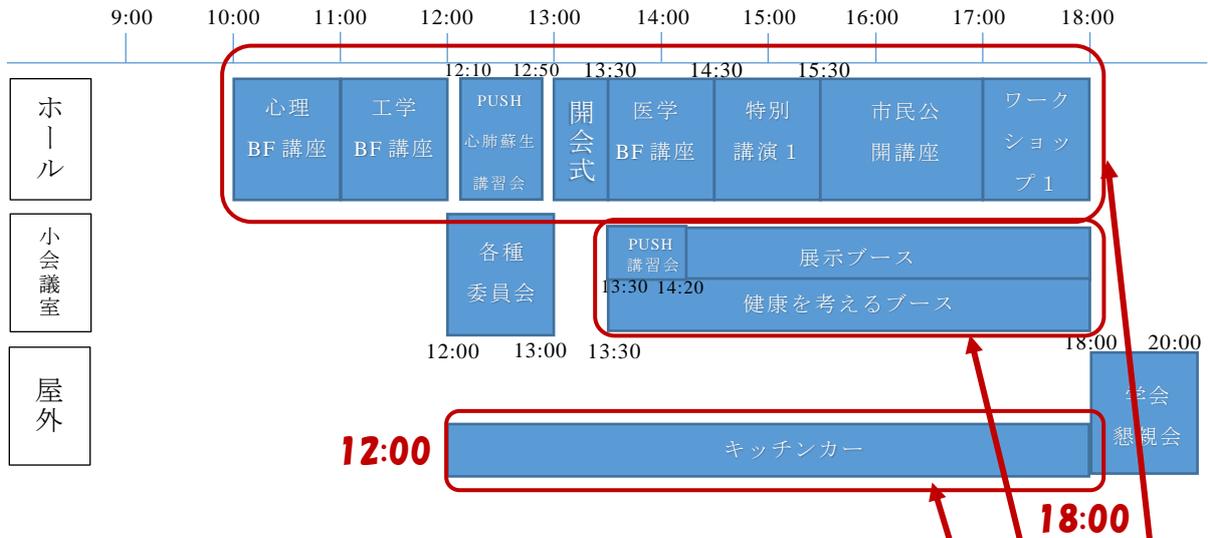
講師：五十嵐真幸 (NPO 法人カムイ大雪バリアフリー研究所)

「車いすラグビーの選手として見ている夢」 (仮)

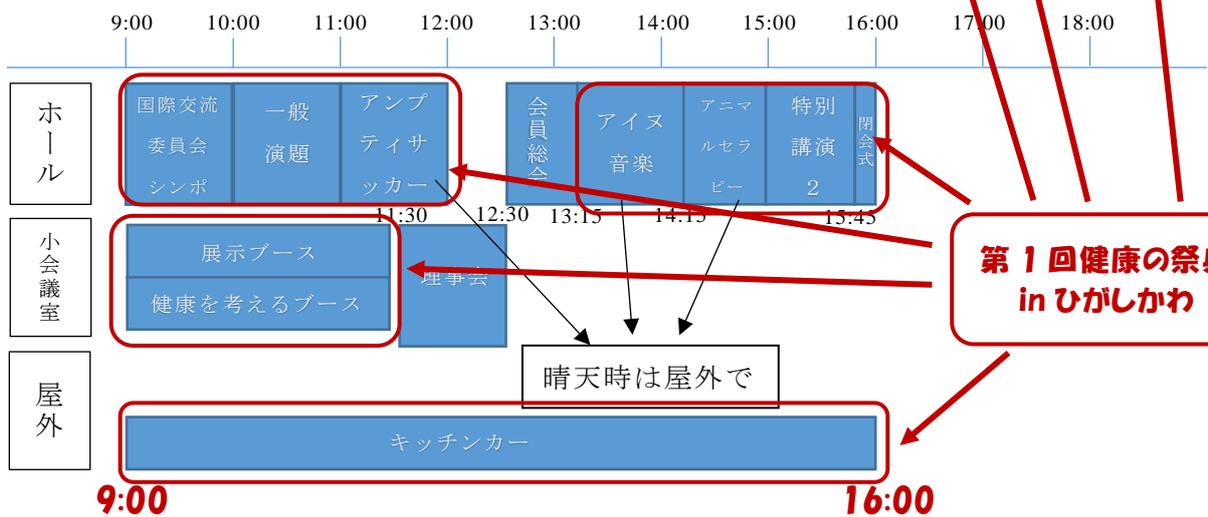
講師：松波正晃 (NPO 法人カムイ大雪バリアフリー研究所)

15 : 45 ~ 16 : 00 閉会の挨拶 ホール

6月21日(土)



6月22日(日)



第1回健康の祭典 in ひがしかわ

学会の大部分を
一般市町村民参加可能(無料)にして
来年以降も継続する
健康の祭典に仕立てています

キッチンカー：

6月21日(土) 12:00-18:00

ベリー中毒(東川)、カツタコ(旭川)、Café TANTE(札幌)、バルバタベルナ(増毛)
ナックルバーガー(北見)、肉と米(帯広)、POTATO GANG(富良野:21日のみ)

6月22日(日) 9:00-16:00

ベリー中毒(東川)、カツタコ(旭川)、Café TANTE(札幌)、バルバタベルナ(増毛)
ナックルバーガー(北見)、肉と米(帯広)

ほかの飲食：

江丹別のパン屋アマン(江丹別:22日のみ)、ポンすけ(東川:第1回・第2回アニマルセラピー in ひがしかわにも出店)